

亀岡市役所 御中

2021.1.15 SS7-21002

〒719-0252

岡山県浅口市鴨方町六条院中 3037

シバセ工業株式会社

<https://www.shibase.co.jp>

代表取締役 磯田拓也

isoda@shibase.co.jp

先日のテレビ東京のガイアの夜明けの番組「京都で日本初“レジ袋禁止”！過酷な舞台裏に密着 600日」を見て、少々我慢できなくなりましたので、ご意見申し上げたく筆を取りました。（正確にはキーボードを叩きましたですが。）

恐らく、多くの反対意見が寄せられていることだと思います。私もその一人ですので、またかと思われたら破り捨てて下さい。こういった意見もあるということでのご理解頂けたらと思います。また、自分を名のらずに陰で意見をするような SNS が嫌いですので、この文章は当社のホームページにも掲載しています。

さて、なぜこのような意見を言う気になったかと言いますと、私も昔亀岡に住んでいたからです。1983年から5年間、亀岡の湯の花温泉の近くにあった日本電産株式会社の亀岡工場に勤務していました。亀岡の住人でした。テレビを見ながら保津川など懐かしい風景が映り、昔を思い出しました。そして、その時の同僚や友人などが亀岡に住んでいます。

私は、日本電産を1999年に退職して、岡山に帰り親戚のストロー工場の跡を継ぎました。実はストローに関してもレジ袋と同じく2年前にプラスチックごみ問題でやり玉に上がった当事者です。2018年春ごろでしたか、亀の鼻にストローが刺さった映像が流れたことで、ストローが悪い、プラスチックの使い捨てが悪い、レジ袋も使い捨てだ、プラスチックの使い捨てはけしからんなどの風潮がマスコミに形作られてきました。おそらく亀岡市としては、このマスコミ報道を受けて、レジ袋を止めれば環境に良い事をしているというイメージ戦略が出来上がったのかもしれませんが。

私の経営しているストロー製造会社のシバセ工業では、この報道を受けてすぐに決断したことがあります。当社はプラスチックストローだけを製造して、紙のストローや生分解ストローなどは扱わないということでした。当時マスコミからの取材は多くありました。当社は、ストローの日本のメーカーとしてトップ企業ですので、ストローのトップ企業として、「今のストロー問題をどう考えているのか」という事です。マスコミの聞き出したい事はわかっていました。「困っている」というメーカーの悲しい声をニュースにしたいのです。当社の回答は、「何も困っていない」「プラスチックストローの方が良い」「プラスチックごみ問題は、処理の問題だけ」ということであり、取材にきた新聞記者は、じっくり話をすることで当社の考えを理解して記事にしてくれました。テレビの取材では「困ってい

ない」と電話で答えたら取材にこなかったです。亀岡市の「レジ袋禁止」の番組も、見ていると環境に対してどうかでなく、単に亀岡市の職員の「過酷な舞台裏」がテーマでした。環境対策に対する効果は語られず、テレビ受けするのは、苦労した職員の物語の部分です。これを見ると、むしろ同じ事をすると大変だから「レジ袋禁止」は止めておこうというのが、他の自治体や視聴者の正直なところではないでしょうか。マスコミの取り上げ方の問題ですが、それでは、犠牲になっている亀岡市の住人は迷惑だけです。保津川がプラスチックごみで汚れているのはわかります。しかし、そのごみは恐らく亀岡市の住人が排出したものというより、台風や大雨、洪水で上流から流れてきたものが多いでしょうから、亀岡市が減らしたレジ袋では、下流の他の市町村では少し助かるかもしれません。地球はつながっているの、自分のところだけきれいにしても、ひとたび大雨が降れば、上流からごみが流れてくるのは、ほとんどの人が地域の川掃除などで体験しているのと同じです。

海洋プラスチックごみ問題では、世界中の海に多くのプラスチックごみが浮かんでいます。それらの多くは、日本が排出したものではありません。もちろん日本のプラスチック使用量が多いのは事実ですが、日本は高度経済成長時に大量に出るごみを処理するための施設を多く作ってきました。日本でも当時、ごみの処理が追い付かず、東京湾にごみ捨ての夢の島を作っていましたが、世界の新興国ではこれと同じ状況が起きています。新興国が、豊かになり、急激に人口が増えていくと、大量消費になります。そして大量の廃棄物が出ますが、廃棄物処理が追いつきません。大量の廃棄物の処理にお金をかけるという発想がなければ、山に野積にするか川に捨てるようになります。山に野積みになると腐敗して環境が悪化しますので、川があれば川に流してしまえという発想になり、川に流れたプラスチックゴミは海へ流れ出し、海流に乗って世界の海へめぐります。ドイツの研究では、海洋プラスチックゴミの9割が中国や東南アジア、アフリカなどの河川から海へ流れ出したものだそうです。また、生活からの排出だけでなく自然災害によって陸上のごみが海へ流れ出すものもあります。東日本大震災の時の津波では多くの家屋と一緒にごみが海へ流れ出していますし、岡山県でも河川の氾濫でごみが大量に流れ出して瀬戸内海の島へ漂着しています。これらは、誰かが捨てた、モラルが悪い、だからレジ袋を使わないようにしようといって解決できる問題ではないです。

日本は、高度経済成長時に大量消費をすることで豊かになってきました。今我々は豊かになってきたから、使い捨てを止めようとか言いますが、東南アジアやアフリカなどの、貧しくて人口が増えている国の人が豊かになるには、プラスチックが必要です。プラスチックは石油から作られますが、石油の5%しかプラスチックに使われていません。プラスチックは、分解しないし、薄く透明な素材です。食料品を長期間衛生的に保存するにはプラスチックが必要ですし、服でも車でもおおよそ生活のあらゆるものにプラスチックが使われています。それは、大量消費に対して安く大量に供給できるからです。人口が少なければ、他の自然素材でも供給が追い付くかもしれませんが、今のような爆発的な人口増加で、人々が豊かさを求めるなら、大量に安く供給できるプラスチックが必要になります。そして、人は貧しい時には環境の事など後回しになることは、日本人も経験してきました。

プラスチックは、まだ発明されて100年も経っていない人造の物質ですので、当然ながら自然界にはそれを分解して食するような微生物は生まれていません。未来では、プラスチックを分解できる

微生物が発生するにしても、今はいけませんので、土に埋めたり海に捨てても分解せずに残ってしまいます。それが海中のように見えるところであれば、海洋プラスチックごみで問題にしますが、埋め立てしても同じです。土の中では見えないだけでずっと残ってしまい、自然災害があれば海へ流出してしまうかもしれません。埋め立てごみは、分解するのではないので、埋めれば見えなくなって人間の罪悪感が薄れるというだけの手段です。自然界に分解する微生物がいらない以上は、完全に処理する方法は熱による破壊、すなわち焼却処分しかありません。人類は、人造物資であるプラスチックを燃やすとダイオキシンなどの有害物質が出るという経験をしながら、技術開発はそれを克服して、ダイオキシンなどの有害物質が出ない焼却炉に改良してきました。日本は、世界に先駆けて環境問題を経験し、それを克服する技術開発をしてきました。そうした技術を世界に輸出していけば、世界のプラスチックごみ問題も少なくなります。一方、「ごみは埋めれば簡単、捨てれば無料」とか考える国では、ごみ処理の技術は進みません。結果として自分たちを苦しめることになります。

世界で、レジ袋削減運動が叫ばれていますが、全く意味が分からない行動です。パンやお菓子の袋もプラスチックで、使用後は捨てられる使い捨てです。飲料のペットボトルも食品トレイもほとんどが使い捨てです。服もプラスチックですが、着なくなったら捨てられます。車も家も使い捨てです。世の中には、永久に残るものはありません。全ての物が使い捨てであり、使えば必ず廃棄の時が来ます。ただ、時間軸が違うだけです。レジ袋は、運搬用の用具です。30分くらい使うのでしょうか。使い終わったら捨てられる他の製品と全く同じです。なぜレジ袋だけが言われるのか。レジ袋をスクープゴートにして、自分に被害が及ばないようにしている大企業の戦略かもしれません。政府は、レジ袋のメーカーは小さな会社が多いので、無くなっても困る社員数が少ないという政治判断でしょう。実際、環境省の調査では業界規模を調べていたようです。

ストローも同じです。ストローは、30分程度で使い終わります。ストロー1本1円くらいでリラックスできるなら、メリットのある価格です。1円くらいだから商品としての販売は難しくなるので、お店側のサービス品という位置付けになります。亀の鼻にストローが刺さった映像が流れた時、すぐに大手のハンバーガー店やコーヒーチェーン店がストローを紙ストローに替えるという宣伝をしました。現場の事を知らないトップが宣伝のためだけに突然言い出しただけです。これも環境問題を宣伝に使っているだけです。1本1gのプラスチックのストローを紙ストローに替えると宣伝しましたが、1個10gのプラスチックカップは替えようとしなかったですね。私も、エンジニアですので、何事もその効率を考えます。不良が発生している場合には、まず最も大きな問題から手を打つべきです。でないと効果が出ないからです。プラスチックごみ問題でも効果を出すなら、ごみの中で最も重量の大きいものから手を付ければ、削減効果も高まりますが、ストロー1g、レジ袋3gのような小さなものに狙いをつけても、何も効果は出ないです。ストローやレジ袋の削減をすれば、人々の間に環境意識が芽生えてくると期待するのは無理な話です。人間の意識を変えるのは損得だけです。

では、どうすれば環境を保全できるかというと、大量に消費をする以上は、大量に廃棄物が出るわけですから、大量のごみを処理する施設を作るしかないのです。50年前から日本がやっていることです。そして今は、ごみを焼却した時に出る熱を使って発電機を回して発電するサーマルリサイ

クルです。プラスチックゴミは、元が石油ですから、燃えます。電気にリサイクルすれば、電気はあらゆる分野で使用できます。プラスチックのリサイクルとして、溶かしてまた別の用途に使用する方法が考えられますが、食材などの汚れがついていると、洗わないと使用できませんが、洗浄だけでも水という資源を汚し、エネルギーを使います。しかも、再生品の用途は限られます。プラスチックは、石油から作られていますが、石油の5%くらいしかプラスチックになっていません。石油のほとんどは、エネルギーとして燃料に使われて簡単にCO₂に変わってしまいます。私の車はプリウスですので、燃費は良いのですが、それでも2か月で40Lのガソリンを使います。重さにすると30Kgくらいです。レジ袋に換算すると、2か月で10000枚のレジ袋を使っている計算です。今後、ガソリン車が減ってEVの電気自動車が増えます。それでも電気を作る為に石油が使われます。原子力発電が、CO₂も出さずよいのですが、危険性もあり拒否反応もあります。風力などの自然エネルギーが増えれば、石油の使用は減ります。燃料としての石油の使用が少し減るだけで、今のプラスチックの2倍の量を作ることができます。そうして、増えた人類を豊かに出来る材料ができます。化石燃料はいずれ無くなります。しかし、人類には知恵がありますので、石油に代わる素材を発見するでしょう。10年では無理でも100年あれば十分な時間があり、科学の発展により石油に代わるプラスチックの素材も発見できるでしょう。未来を信じれば、石油の枯渇を悲観する必要ありません。

地球温暖化は進んでいますので、CO₂の削減は必要ですが、ごみ焼却によるCO₂の発生は微々たるものです。家庭から出る生ごみなどは水を含んでいますので燃えにくいので、燃やすために油を入れたりしますが、プラスチックはその補助燃料として使い終わったプラスチックが有効に活用できます。とにかく、燃やさなければごみの処理は出来ませんし、燃やすことによって分解して灰になるので体積が小さくなって、最終処分場も小さくできます。日本が、ごみ処理場が多いのは国土が狭く処分場が小さいので、体積を小さくするためです。世界で広い土地があるところは、穴を掘って埋める方が楽でよいのですが、プラスチックでもなんでも一緒に埋めてしまって、今になって掘り返して焼却処分をするといった無駄をしている国もあります。

CO₂削減が盛んに言われるようになってきました。地球温暖化が進むと異常気象が起こります。異常気象で洪水や大雨によって、陸上のごみが海へ流されると、世界へ拡散します。温暖化で感染症が増えるかもしれません。当社では、ストローの製造に使用する電力を、太陽光発電と水力発電だけのCO₂フリーにしました。水力発電は、岡山県の所有する水力発電所の電気を購入しています。その電気の購入費用の一部は、岡山県の環境保全に役立てるということです。プラスチックのごみは分解しませんので自然界に残ってしまいます。そういったごみを拾い集めて焼却にて処理して電気にリサイクルすることに水力発電での電気の購入費の一部が使われてくれれば、環境に貢献したことになります。

人は、豊かになった生活、便利になった生活を失うことには抵抗があります。レジ袋の削減は、生活を不便にするだけですので、長続きしないと考えています。ストローも紙ストローなどに替える企業もありますが、意味がありません。紙ストローは、紙を接着剤で固める方法で作りますのでトイレトペーパーの芯と同じ作り方です。ジュースに浸けておくと、紙の繊維が溶けだしたり、接着剤

が溶けだしたりして、それをジュースと一緒に飲むのは気持ち悪いです。味も変わってしまいます。その点、プラスチックは分解することがないので、ジュースに溶けだすことはありません。また、紙のストローでは、水が染みるので、リサイクルもできず、燃やして処理するにも生ごみと同じく燃え難くなります。プラスチックなら、生ごみなどと一緒に燃やす補助燃料になります。紙ストローにしようとしたのは、捨てられた時の事だけです。捨てられた時のことを考えるより、まずは正しく処理して、全て焼却処理することを考えるべきです。同じように生分解プラスチックというものもあります。これも、捨てられた時のことを考えただけです。しかし、現在の技術では生分解プラスチックといっても、半分以上は分解しないプラスチックです。これが増えると、捨てられても分解しないプラスチックが出るし、しかもリサイクルしようとしたときに、通常のプラスチックと混ざると分解する部分が残る、プラスチックの強度が落ちます。製品で見分けがつかないため、リサイクルが出来ず大変危険なことになります。当社では、ストローの製造工程で出た不良品は、再生に回していますが、生分解ストローを作っている他のストローメーカーでは、この生分解のストローの素材だけは、他と混ざらないように管理して、不良品は全て焼却処理に回しています。製造段階でそうですから。市場に出てしまえば、プラスチックのリサイクルといったことは全くできなくなります。

環境問題への対応は、人々の生活の利便性を確保して、より便利にしながら、かつ環境に良いというやり方をしないと、環境問題だから少々不便でもよいという考えでは長続きしないです。人口が多くなったので大量消費は仕方がない話です。消費すれば同じだけ廃棄物が発生するので、大量廃棄に対処するための施設を作る必要があります。ごみ回収のインフラやごみ処理施設、そしてごみの焼却による発電。そういったインフラを作ることが環境保全につながります。

ところで、レジ袋とストローには似たところがあります。どちらも、基本は事業者側のサービス品であり、商品として販売しているものではないということです。事業者は多く販売したいという想いからサービスをします。レジ袋は、たくさん買って欲しい、たくさん買ってくれたら持って帰る袋をプレゼントして、また来てくださいというサービスです。ストローは、飲食店がジュースを飲みやすくして、ゆっくりと楽しんで下さいというサービスです。ストローが無くてもコップから直接飲みます。しかし、ストローがあれば、コップを持ち上げなくても飲みます。ゆっくりと少しずつ飲みます。その間、おしゃべりをしたり、リラックスしたり、ゆっくりとした時間を楽しむことができます。ストローは、「文化のバロメーター」とも呼ばれます。ストローを家庭で使うことはありません。ほとんどが外食で使用されますが、外食が増えるのは、文化水準が上がって社会が豊かになった証拠です。お店の人も、出来る限りのサービスをして、またお客に来て欲しいと考えます。お客側としても、ジュースを頼んでもストローが出ないなら不快ですし、安いのでいちいち買うようなものでもありません。この店はサービスが悪いから次は来ないと考えるだけです。お客様の大半は、直接文句を言う事はありません。ただ、次はそこへ行かないというだけです。事業者はそれが怖い。消費者は、ストローやレジ袋の削減が、プラスチックごみの削減に効果が大きければ仕方がないと一時的には我慢するかもしれません。しかし、人間というのは我慢が続かない生物です。一時的にブームになっても直ぐに関心は次へ移ってしまいます。

今は新型コロナウイルスの感染拡大により、プラスチックゴミ問題などマスコミも取り上げないので、誰も関心を持たなくなっています。それに、プラスチックは今のウイルスの感染防止に役立ちます。レジ袋でもそうです。再利用可能なエコバック持参を推奨しますが、どれだけ洗っているのか。食材が中でこぼれる場合もあり、洗わなければ不衛生です。当然、洗えば洗剤と水という資源を使います。洗剤を使えば川を汚染します。1回限りの使い捨ては無駄のように見えますが、実は逆に実質的にコストも安くなります。それに、レジ袋は単に荷物の袋だけでなく、使用後はごみの袋として利用します。コンビニで食料を買って食べることが多いですが、私は必ずレジ袋を購入します。食べた後の食料の空き容器は、レジ袋に入れてまとめて捨てます。これが、レジ袋がなければ食材の付着した容器をゴミ箱に直接入れるのでゴミ箱に食材が付着して、腐って異臭を放つ不衛生なゴミ箱になります。誰が、そのゴミ箱を洗うのでしょうか。レジ袋という3円をケチっただけで、社会に余計にコストがかかって、周りに迷惑をかけることになります。

ウイルスの感染防止にプラスチックの利用が増えています。マスクの不織布もプラスチックです。感染防止は医療関係ですので、当然使い捨てです。プラスチックの使い捨ては、膨大になっています。ストローは、東南アジアなどでは感染防止のため、何でもストローを使って飲みます。缶ジュースでも缶ビールでも、コップでもです。誰が触っているかわからない、しかも洗っていても水がきれいかわからない。海外旅行では生水は飲まないように言われると思いますが、不衛生な水で洗われると、コップの縁に菌が付着しているかもしれないので、ストローで飲むわけです。それに海外では水が貴重ですので、食器を洗うのが難しくなります。そこでは、食器にポリ袋を被せてそれに食材を盛って食べます。食後はポリ袋ごと廃棄すれば、食器は洗わなくて済みます。水の豊富な日本では考えられないことですが、世界には水の方が貴重な国はたくさんあります。そういった国の人が衛生的な食事をするために、プラスチックが必要になります。貧しい国の人は一人や二人というレベルではありません。何億人という貧しい人がいますので、そういった人に豊かになってもらうための材料としては、大量に安く、軽く、腐らない素材であるプラスチックが適しています。

SDGsという言葉が広く知られるようになってきました。その中の「海の豊かさを守ろう」という項目に対して、たまたま発生した海洋プラスチックごみの問題を当てはめる人が多いですが、意味がないです。海というワードで関連付けただけではしょうが、人は陸上で生活していますので、プラスチックごみの発生源は、間違いなく陸上です。陸上で発生しているので、海だけでなく、陸上にもごみがあふれています。かといって、プラスチックを使うなというのは、豊かになった先進国のエゴです。先に自分たちはプラスチックの恩恵を受けてきたのに、自分が豊かになったら途端に汚れるから使うなというのは、自分勝手過ぎるでしょう。地球上の人口が増える以上は、発生を抑制できないのは現実です。ゴミの発生は増えることはわかっている事であり、東京湾の夢の島を作ったのは一時的としても、その解決手段はゴミ処理場を作ることだけです。

SDGsで言えば、プラスチックごみ問題の対策は「貧困をなくそう」でしょう。食べるものに困る貧しい時に、環境を考えろ、ごみを捨てるなといっても、聞く耳はないです。貧困をなくし豊かになるためには、プラスチックが必要です。衛生的に大量の食べ物を供給するにはプラスチックが必要で

あり、同時に食べれば食材が付着したプラスチックが出ますので、ほっておくと不衛生になります。ごみを早く回収して焼却処理による熱によって破壊することで、プラスチックも食材も分解できます。また、その時の熱で電気を産み出せば、電気は色々な分野で有効活用できます。電気というエネルギーがあり、環境がきれいであれば、産業も発展するので、人々は豊かになってきます。

当社は、創業95年になりますが、米や麦の販売で創業して、初代の社長が素麺製造の会社として設立し、2代目の社長がストロー製造に切り替えました。そして私が3代目として、シバセ工業の再生に努めています。2代目のストロー製造では、大手乳業メーカー1社の下請け会社でしたが、親会社からの注文が無くなり、倒産の危機を迎えました。そこを20年かけて再生してきました。その中で、もっとも感じているのが、工場の環境整備が再生に最も効果的であったことです。トイレをきれいにする、工場を掃除するという当たり前のことが、多くの顧客を呼び込むことにつながりました。最初の頃は仕事も無いのに掃除してどうなるという否定的な社員の意見も聞かれましたが、まずは掃除から始めることで、仕事が増えることが実感としてありました。特にトイレをきれいにすることは最も効果が大きかったので、私自身今でもトイレ掃除をしています。貧しい人たちも、意味が分からないかもしれませんが、環境をきれいにしていけば、豊かな生活へとつながります。それは使わない事ではないのです。トイレを使わない、工場を使わなければ、きれいなままですが生産は生み出せません。使うことによって、経済を活発にして、そして発生したゴミはすぐに片付けることが大切です。

私は、プラスチックはどんどん使うべきという主張をしています。トイレも使えば汚れます。使わなければ、大変なことになります。プラスチックを使った後は、正しく処理して環境を維持することが最も大切です。人々の生活に便利なものはどんどん利用して、経済を豊かにすることによってより環境に意識を向けることができるようになります。

ところで、JRでもゴミ箱を撤去する動きがあるそうです。家庭ごみの持ち込みが多い事が理由で、使う人のモラルの問題です。JRに設置しているゴミ箱のごみは、JRの職員が片付けます。折角利用者のへのサービスでゴミ箱を設置したのに、心無い一部の人の行動でゴミ箱が無くなると多くの人困ってしまいます。当社では、道路に面したところに、ゴミ箱を設置しました。自動販売機を設置してるのですが、その自動販売機用のゴミ箱に、色々なゴミを入れる人が増えて、会社の前にゴミがあふれるようになったことが原因です。社内をきれいにしてきたのに、周辺が汚いでは困ります。そこで、ゴミ箱を設置しました。当然自治体がゴミの片づけはしてくれませんが、自社の社員が分別してまとめてゴミ処理をしますが、一般の人が入れるので燃えるもの、燃えないものが混在しています。それを社員が取り分けています。社員からは、なんで私たちが一般の人の汚いゴミまで処理しないといけないのか、不満もでました。ゴミ箱を撤去しようという意見もでました。ゴミ箱を撤去してというのは、結局自分さえよければという考えになってしまいます。問題は分別ですので、使う人のモラルを向上させればよいわけで、掲示などで分別を正しく入れるようお願いをしました。最近少しずつ良くなってきているように感じます。ただ、食べ残しなどの食品容器をそのまま入れると、食材がゴミ箱や他のゴミへくっついて汚くなります。こういう時に、レジ袋の中でまとまっていると、汚れが他へ付着するのが少なくなり、汚れの拡散も少なくなります。レジ袋の効用というのは、そう

いう所にもあり、大変便利なものです。プラスチックごみになるからけしからんというのは、恐らくごみを片付けたことが無い人が言っているだけでしょう。プラスチックの削減にもつながらず、汚れの拡散に貢献するレジ袋禁止というのは、怖いですね。

番組では、亀岡市の職員の人が、レジ袋禁止に向けて頭を下げてお願いに回っていましたが、それよりも通勤時にごみを拾う行動が印象的でした。ごみ拾いは何処でも必要な行動ですので、同じ頭を下げるなら亀岡の市民皆さんでごみ拾いをするように、お願いした方がよかったのではないのでしょうか。それなら、見習いたいというところも増えるでしょう。私もごみ拾いを見習いたいと思います。ごみ拾いをすれば、環境もきれいになります。ごみを減らすために不便を強いるのではなく、出したゴミを片付けにはどうすればよいか、ごみの分別を正しくしてもらうにはどうすればよいか、当社でも会社の前のごみ箱で試行錯誤しています。また、プラスチックはごみでなく、電気を産み出すためのエネルギー源として集めるということにすれば、場合によっては、今の段ボールのようなリサイクルの買取が出来るようになって、電気へのリサイクル資材として自然界へ散乱するものが減るかもしれません。

当社はプラスチックストローを製造していますが、ストローは飲料以外でもあらゆる分野で活用されています。工業や医療などに使われるストローの実例集を作っていますので同封しておきます。ストローでもアイデア次第で、あらゆる分野での活用ができますが、これらのほとんどは「使い捨て」という1回限りの使用です。しかし、これを使うことでよりコストが安く便利になることから使用が増えています。このようにプラスチックの使用は減ることがなく増えていきますので、我々は使うことを制限するのではなく、使った後は正しく処分する、処分から漏れて自然界へ出たプラスチックは人の手で回収するというのが、これからの豊かな社会を創りながら自然環境を守っていくことにつながるのではないのでしょうか。

亀岡は、社会人として初めて住んだ街ですので思い出があります。また5年も住んでいたのは、地元岡山以外では亀岡だけですので、ぜひ亀岡が美しい街になってくれることを願います。

最後まで読んでいただけたことに感謝します。ありがとうございました。